

様式3
提案書作成例

0. プロジェクトの全体像

プロジェクトの全体像を自由様式で記載

プレイヤー

電子機器メーカーA社

AIや画像認識技術を防犯カメラへの実装

参画

飲料関連メーカーB社

防犯カメラ設置のための自動販売機の設定

スタートアップC社

AI顔認識技術のカスタマイズ開発

デベロッパーD社

実証フィールドの提供
地権者、自治会等との調整

プロジェクト内容

防犯用自動販売機

- 設置済の自動販売機の商品棚にカメラを取り付け

【主な検証内容】

- 防犯カメラシステムの機能が成り立つか
- 本取組が事業として成り立つか（事業者はお金を払ってでも導入したいか）



今回の実証

事故や犯罪の予兆の検知・通報

- AI画像認識技術を活用して事故や犯罪の予兆をリアルタイムに検知・通報する



【主な検証内容】

- 防犯カメラが犯罪抑止となって、犯罪件数減少に寄与しうるか
- 自治体や住民の安全・安心感につながるか

今後の展開可能性

非接触型の顔認証決済

- 非接触型の顔認証決済への展開可能性を調査、実証計画を策定



【主な検証内容】

- 防犯カメラと顔認証決済が同一の防犯カメラシステムで可能か
- 新たなサービスとして成立しうるか

1. プロジェクトの概要

審査の観点

事業趣旨との合目的性
検証の有効性

プロジェクトの背景・目的、取組内容などの概要を記載

重点テーマ		<p>「安全・安心」 先端技術を駆使して、暮らしの安全を守る</p>
関連する 社会課題 ^{*1}	事象	<ul style="list-style-type: none"> 当エリアは、平成29年に刑法犯認知件数は6,633件となり、6年ぶりに都内ワーストに転落 防犯カメラが設置されている地域は比較的犯罪が少ないということが判明している
	背景	<ul style="list-style-type: none"> 当該エリアでは、公共施設が少ないことなどから、防犯カメラが設置されていない空白地域が多く、犯罪発生件数が多いと考えられている
テーマ		<p>防犯用自動販売機の実証実験</p>
取組内容	解決策	<ul style="list-style-type: none"> 当エリアに多数ある自動販売機に防犯カメラを設置することで犯罪の減少につながることが期待されている
	ソリューション	<ul style="list-style-type: none"> 設置済の自動販売機の商品棚にカメラを取り付けることで、防犯用カメラとして作動。夜間もわずかな光があれば被写体を捉えることが可能で、AI画像認識技術を活用して事故や犯罪の予兆をリアルタイムに検知・通報する また、With/Postコロナ時代への対応として、AI画像認識技術を活用した非接触型の顔認証決済への展開も可能
本事業で 取り組む理由		<ul style="list-style-type: none"> 事業者単独では、防犯カメラを設置するチャネル（自動販売機等）が限定的なため、本事業で取り組むことで様々なプレイヤーと連携し、防犯カメラ設置箇所を確保できる パートナーとなる企業や実証フィールドを事業者独自で探すのは困難 様々なプレイヤーと連携することで、地域課題への取組を多摩地域内外に情報発信できる
プレイヤー	中小企業	<ul style="list-style-type: none"> 電子機器メーカーA社：防犯カメラの開発、販売、保守・運用 飲料関連メーカーB社：自動販売機での飲料販売
	スタートアップ	<ul style="list-style-type: none"> スタートアップC社：ディープラーニング技術を使用したAI画像認識技術の開発
	大企業等	<ul style="list-style-type: none"> デベロッパーD社：実証フィールドの提供（新たな自販機設置及び既存自販機の活用）
本年度の 検証・評価内容		<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラシステムが機能として成り立つか 本取組が事業として成り立つか（事業者はお金を払ってでも導入したいか） 防犯カメラが犯罪抑止となって、犯罪件数減少に寄与しそうか（自治体や住民は安全・安心感を感じるか）

*1：参考資料に根拠となるデータ等を掲載

1. プロジェクトの概要 – イメージ図

審査の観点

事業趣旨との合目的性
検証の有効性

図やイラストを用いてプロジェクトのイメージを記載

防犯用自動販売機の実証実験イメージ



今回の実証



事故や犯罪の予兆の検知・通報



非接触型の顔認証決済

今後の展開可能性










2. ビジネスモデル

審査の観点

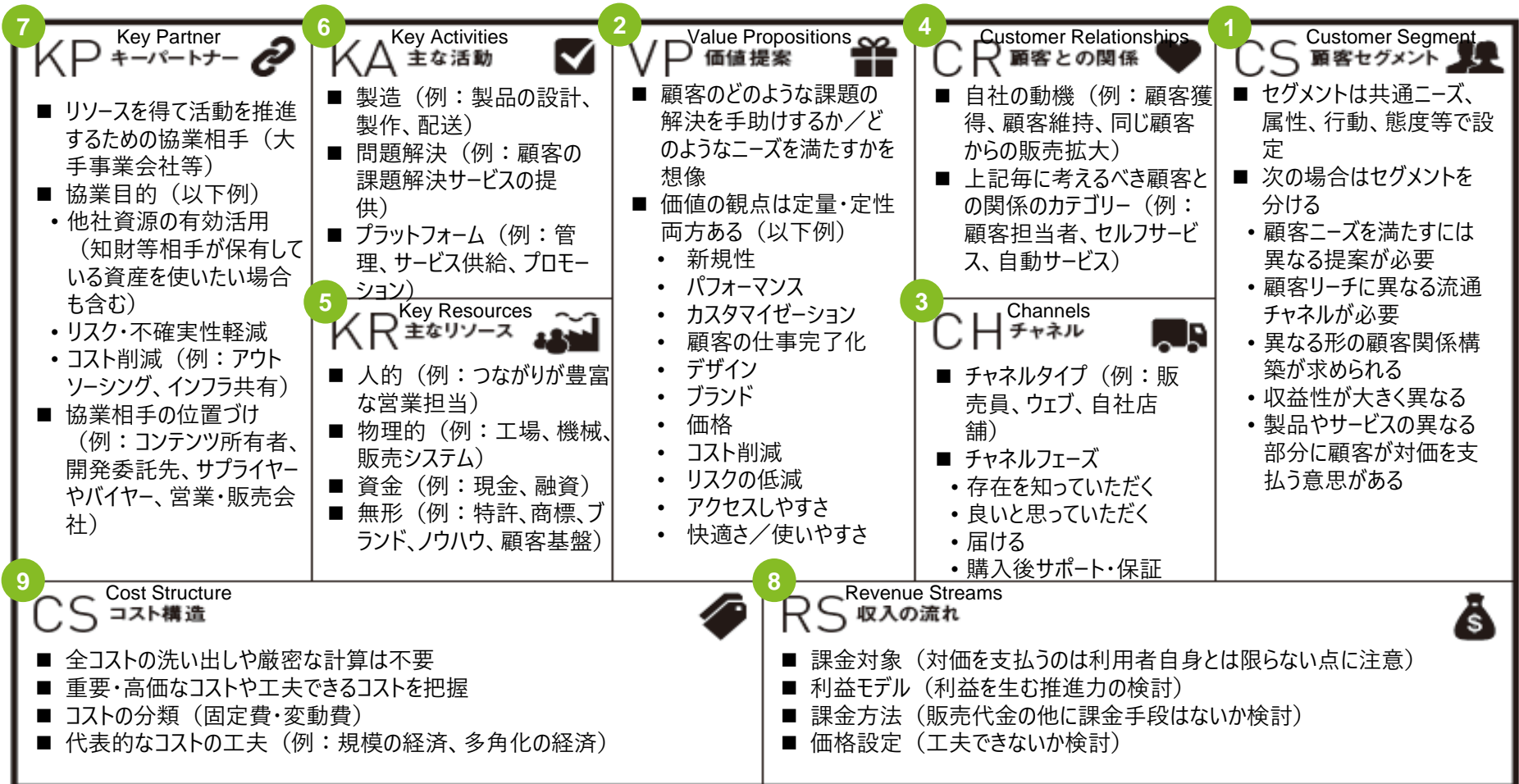
新規性・独自性
検証の有効性

ビジネスモデルの説明をビジネスモデルキャンバス等などで記載（次頁に作成手順の参考あり）

<p>7 KP キーパートナー </p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大手電機メーカーA社 <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの開発、販売、保守・運用 ■ 大手飲料メーカーB社 <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機での飲料販売 ■ スタートアップC社 (外国企業) <ul style="list-style-type: none"> ・ディープラーニング技術を使用したAI画像認識技術の開発 ■ デベロッパーD社 <ul style="list-style-type: none"> ・実証フィールドの提供 	<p>6 KA 主な活動 </p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 防犯カメラシステムのPoCの実施 ■ 自動販売機及び周辺エリアの防犯への取組 ■ 顔認証決済による非接触型販売 	<p>2 VP 価値提案 </p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域課題の解決 <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラの空白地域に自動販売機でタッチポイントを提供 ・近隣住民への安全・安心感の提供 <p>(さらには)</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ withコロナ時代の対応 <ul style="list-style-type: none"> ・顔認証決済により、外出自粛や接触低減が進む中で売上の確保 ・現金回収/補充、メンテナンス作業の削減 	<p>4 CR 顧客との関係 </p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 事業者の動機 <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラや自動販売機の顧客獲得・拡大 ■ 自治体・住民との接点 <ul style="list-style-type: none"> ・防犯カメラ設置による各社取組のPR <p>3 CH チャンネル </p> <ul style="list-style-type: none"> ■ チャンネルタイプ <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機 ■ チャンネルフェーズ <ul style="list-style-type: none"> ・様々なプレイヤーとの連携を情報発信することで認知度を向上 	<p>1 CS 顧客セグメント </p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 民間 <ul style="list-style-type: none"> ・自動販売機を設置する飲料メーカーやデベロッパーに防犯カメラを販売 ■ 国、自治体等 <ul style="list-style-type: none"> ・道路や街中での防犯カメラシステムとして販売
<p>9 CS コスト構造</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 防犯カメラシステムの端末費用 ■ システム開発費用 ■ 自動販売機のメンテナンスやシステム運用に係る人件費 	<p>8 RS 収入の流れ </p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 大手電機メーカーA社からスタートアップC社へ開発を委託 ■ 自動販売機を設置している飲料メーカーB社が大手電機メーカーA社に対して防犯カメラシステムやメンテナンス代を支払い ■ (将来的には) 受益者である自治体 (住民) から飲料メーカーやデベロッパーに防犯カメラシステムの設置を補助 			

(参考) ビジネスモデルキャンバス作成手順

- 実証計画を、顧客の関連項目、手段の関連項目、収益モデルの関連項目の順（①～⑨）でビジネスモデルキャンバスに落としこみ、協業目的や社会実装に向けた本実証の位置づけの整理を推奨
- 上記のプロセスによりステークホルダー間の目線やモチベーションを明確にし、オープンイノベーションプロジェクトでの協業を円滑に進める

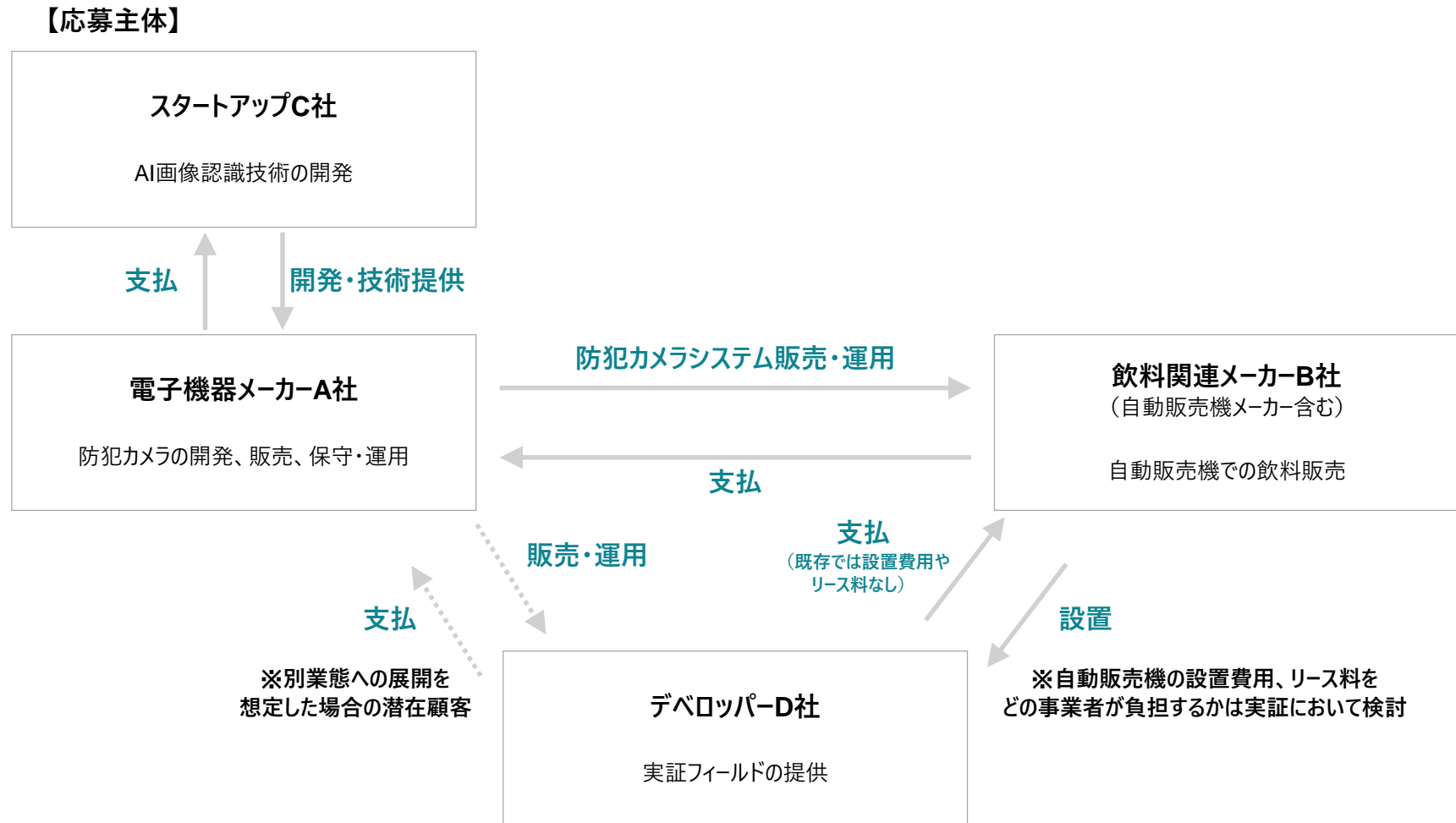


2. ビジネスモデル

審査の観点

新規性・独自性
検証の有効性

ビジネスモデルの説明をビジネスモデルキャンバス等などで記載



3. 体制

審査の観点

実現可能性

参画する各プレイヤーの役割等を記載

プレイヤー	想定される役割	得意とする技術・能力等	類似の事業経験
【代表事業者】 電子機器メーカーA社 (多摩/中小企業)	<ul style="list-style-type: none"> AIや画像認識技術を防犯カメラへ実装。現地への開発人員の派遣 週次会議での開発状況の報告 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラの開発、販売、保守・運用をワンストップで提供できる 他社協業による新規事業創出経験あり 	<ul style="list-style-type: none"> 他エリアでの類似事業の実証実験 自動販売機以外の機器への防犯カメラ実装の実績
飲料関連メーカーB社 (区部/中小企業)	<ul style="list-style-type: none"> 実証実験の対象機器の選定 防犯カメラ設置のための自動販売機の設定 	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪発生件数が高いエリアに自動販売機を多数設置している 機器のカスタマイズに柔軟に対応 	<ul style="list-style-type: none"> 防犯カメラ設置の自動販売機を多数保有
スタートアップC社 (多摩/SU)	<ul style="list-style-type: none"> AI顔認識技術のカスタマイズ開発 週次会議での開発状況の報告 	<ul style="list-style-type: none"> 先端のリアルタイムAI顔認識エンジンを保有 	<ul style="list-style-type: none"> AI画像認識技術を活用した防犯・決済ソリューションの事業経験が豊富
デベロッパーD社 (多摩/大企業)	<ul style="list-style-type: none"> 犯罪発生件数が高いエリアなどでの実証フィールドの提供 地権者、自治会等との調整 	<ul style="list-style-type: none"> PoC用自動販売機の提供 地権者、自治会等との関係性 	<ul style="list-style-type: none"> 保有するオフィスビル、商業施設、駐車場等で実証実験の経験多数

4. 本年度スケジュール

審査の観点

実現可能性

本年度スケジュールをタスクの前後関係などが分かるように記載

業務内容	2022年						2033年					
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
目標			検証開始	中間報告			最終報告					
企画・構想	A社・B社間 目的やゴールの合意		KGI・KPI策定		顔認識技術を保有する スタートアップとの交渉	PoC実施が可能な デベロッパーとの調整	プレイヤー選定の 評価項目・観点の整理	契約締結				
検証	技術情報・法規制等の対応		オペレーション/ロジスティクス準備 (ロケーション確定、現地施策等)						PoC実施 (2~3箇所)			
取りまとめ									WEBサイト掲載の 情報提出		成果 取りまとめ	

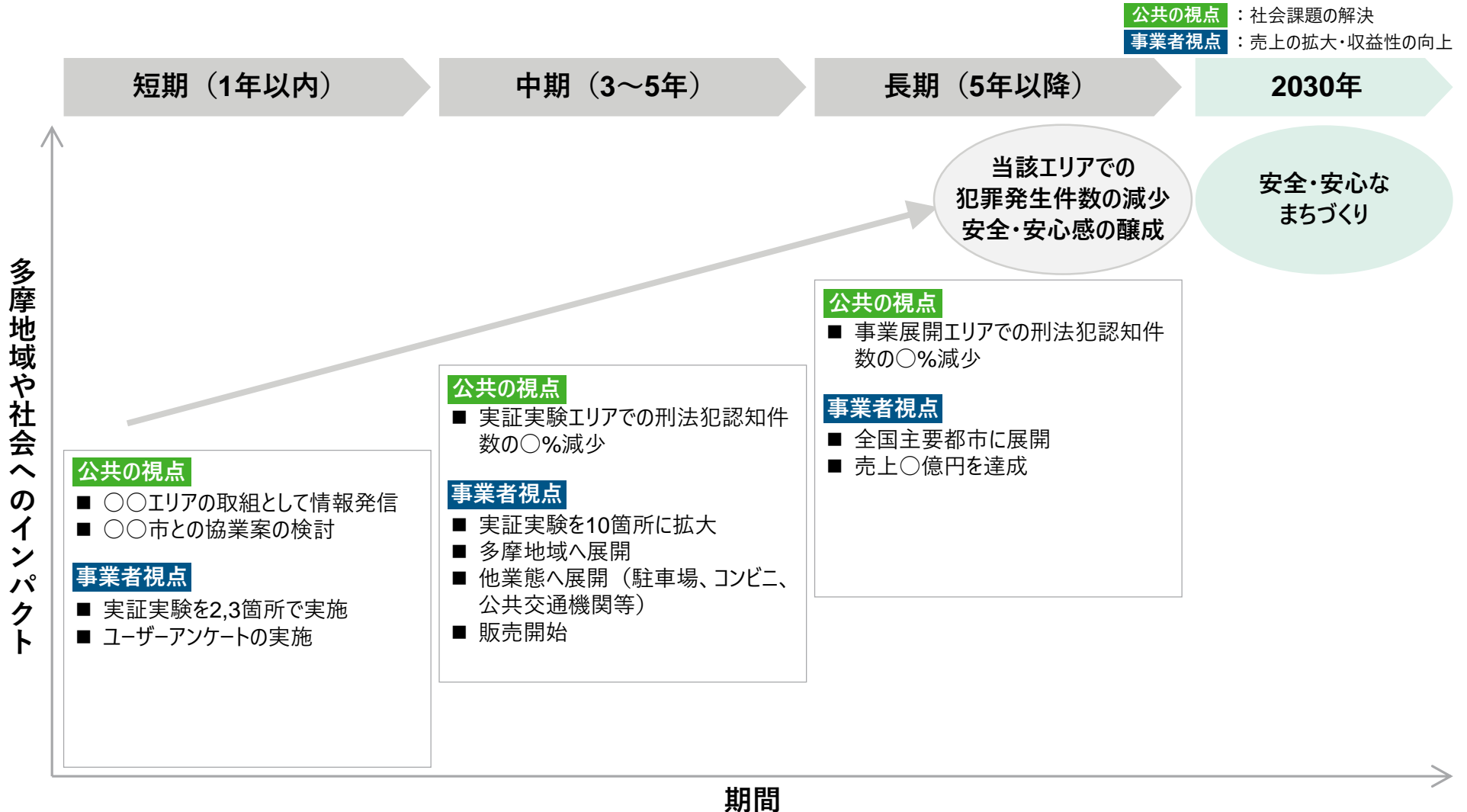
5. プロジェクトの目指す姿

審査の観点

事業趣旨との合目的性
実現可能性

将来における多摩地域や社会へのインパクト、中長期に目指す姿を記載

公共の視点 : 社会課題の解決
事業者視点 : 売上の拡大・収益性の向上



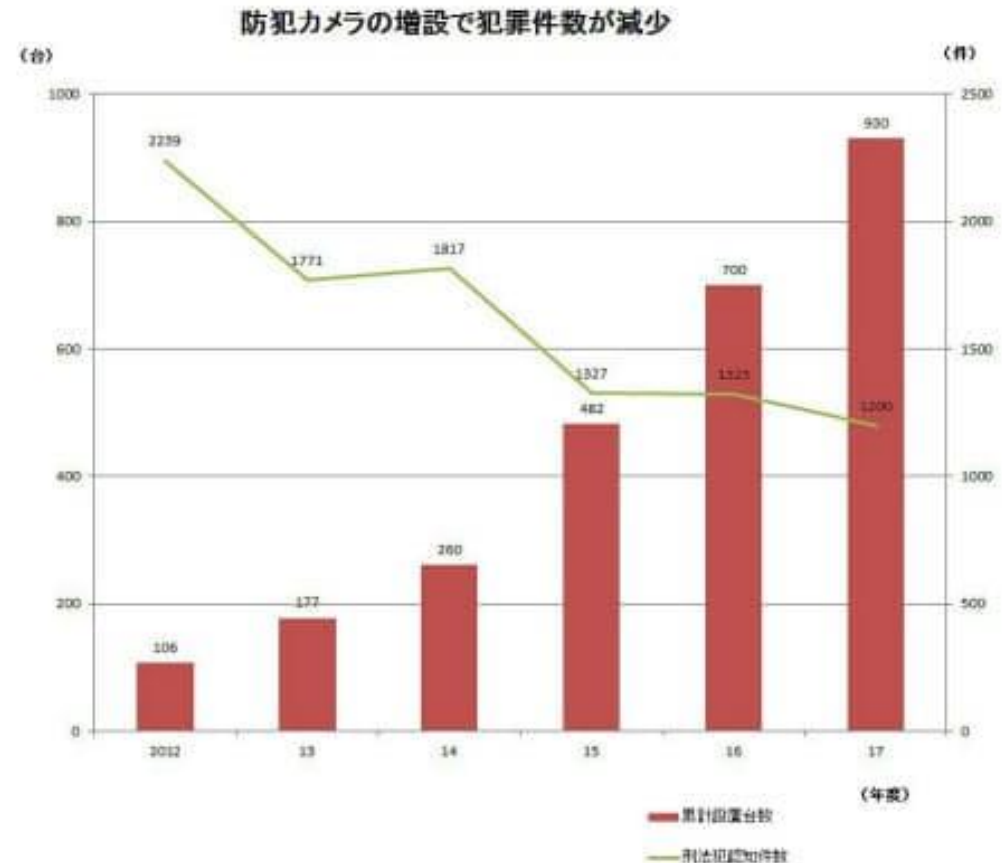
参考資料

プロジェクト概要の根拠となるデータや用いる技術の概念図等を自由様式で記載

平成29年刑法犯認知件数

23区ワースト10	(件)
〇〇区	6,633
B区	6,533
C区	6,485
D区	5,902
E区	5,871
F区	5,400
G区	5,235
H区	4,778
I区	4,677
J区	4,359

防犯カメラの累計設置台数と、刑法犯認知件数の推移（他自治体の例）



出所：日経クロステック (<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO27492010Y8A220C100000/>)

警視庁「平成29年区市町村の町丁別、罪種別及び手口別認知件数」 (https://www.keishicho.metro.tokyo.jp/smph/about_mpd/jokyo_tokei/jokyo/ninchikensu.html)